

## 基本情報

試験時間：60分 満点：100点 解答方法：番号選択式

## 出題範囲

「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「論理・表現Ⅰ」

## 難易度

基礎～標準レベル

## 出題内容

年度	大問	小問	出題内容
2025	1	6問	発音・アクセント
	2	10問	適語句・適文選択
	3	5問	語句整序
	4	10問	長文総合「忍耐と長期的視点による社会問題の解決」
	5	6問	長文総合「小麦の歴史、栄養価、健康や環境への影響」
	6	3問	長文内の不要文選択「責任ある SNS の使い方」

## 傾向

- 発音・アクセント問題、適語句・適文選択問題、語句整序問題、長文問題3題の計6題で構成されています。以下では、大問ごとに傾向を記します。
- 大問1 発音・アクセント  
下線部の発音がほかの3つと異なるものを選ぶ問題と第1アクセントの位置がほかの3つと異なるものを選ぶ問題が3問ずつ出題されました。発音問題では home のような基本単語から reign のようなあまり見慣れない単語まで幅広く問われました。アクセント問題では chocolate のような、日本語と英語でアクセントが異なる単語が扱われました。
- 大問2 適語句・適文選択  
会話文中で文法、語法、会話表現などの知識を問う問題が出題されました。後半の問題になるほど会話文の分量が増加しているのが特徴です。文法、語法を問う問題は be busy ~ing 「～するのに忙しい」、Would you mind if ~? 「～してもかまいませんか。」、〈see(知覚動詞)+O+C(～される)〉「OがCされるのを見る」、〈must have+過去分詞〉「～したに違いない」が扱われました。誤答の選択肢は紛らわしいものが多く、文法の正確な知識が求められました。10問あるうちの最後の2問は一文を選ぶ問題になっており、会話の前後の文脈を把握できているかが問われました。

## ● 大問3 語句整序

重要な文法、語法が入った一文が空欄になっており、語群にある7語の語句をすべて並べ替えて文を完成させる問題が出題されました。また、会話文形式の問題となっており、並べ替える英文に日本語が与えられていないため、会話の流れの把握と文法、語法の知識の両方を必要とする問題といえます。文法、語法の項目としては **hardly ~ when ...** 「~するとすぐに…」や **nothing is more ~ than ...** 「…よりも~なものはない」などが扱われました。並べ替える7語の中に複数の文法、語法の要素が含まれる問題もあり、応用力が試されました。

## ● 大問4 長文総合

約550語の長文が出題されました。長文のおおまかな内容は「人間社会における問題解決の難しさは、短期的な自己利益に基づいた視点に起因していて、自然界の法則、特に『忍耐』の概念をとり入れることで長期的な視点に基づいた持続可能な意思決定が可能となる。」というものでした。きわめて抽象的な内容であるからこそ、より精緻に文章を読み込む必要がありました。小問10問のうち5問は単語の意味を問う問題で、易しい単語は出題されておらず、単語の意味を文脈から推測して解く必要がありました。ほかには代名詞の指す内容を選ぶ問題、下線部の内容把握問題、本文と内容が一致する文を選択する問題が出題されました。内容一致文選択問題では選択肢の多くが2行にわたっており、選択肢自体の内容を理解する力も試される問題でした。

## ● 大問5 長文総合

約880語の長文が出題されました。小麦の歴史、栄養価、健康や環境への影響をテーマとする長文でした。地理や家庭科の要素を含む長文ですが、英文を読めば理解できるものになっており、他教科の知識に依存した問題は出題されませんでした。大問4よりも分量が多く読み応えのある文章になっているのが特徴です。内容把握問題が多く、長文全体の内容を把握する力が求められました。

## ● 大問6 長文内の不要文選択

「責任あるSNSの使い方」をテーマとする約400語の長文が3つの段落に分けられ、それぞれの段落中にある不要な一文を選ぶ問題でした。このような形式の問題は段落のおおまかな内容を捉えるだけでは正しい答えを選べないことが多いので、文脈を正確に把握することが求められました。

**対策**

## ● 大問1 発音・アクセント

発音・アクセント問題では、日本語になっている英語(外来語)がよく出題されます。日本語とは発音・アクセントが異なるものが多いので注意が必要です。単語の発音・アクセントは一定の規則はあるものの、つづりとは関連しないものも多くあります。つまり、知っていないと解くことができない知識問題といえます。英語を学習する際には、英文を声に出して読むようにしましょう。発音・アクセントを知らないと正確に音読ができないため、自分がどの単語の発音・アクセントを知らないかに気づくでしょう。そのような単語に出会ったら辞書や単語集で必ず確認するようにしましょう。

## ● 大問2 適語句・適文選択

文法、語法を正確に覚えていれば即答できる問題が多いので、できるだけ多くの知識を蓄えておきましょう。文法問題は2種類あります。1つ目は誤答の選択肢を空欄に当てはめると文法的に成立しないもので、文法の形を暗記していれば正解を選べる比較的易しい問題です。2つ目は誤答の選択肢を空欄に当てはめても文法的には成立するもので、文脈を把握する力が求められます。ただ、重箱の隅をつつくような知識は問われませんでしたので、教科書に記載されている内容を定着させていけば十分対応できるでしょう。

## ● 大問3 語句整序

文法、語法の知識のみでパズルのように組み立てて解くことも不可能ではありませんが、7語すべての順番を答える必要があるため難しい作業になるでしょう。まず会話文を読み空欄に入りそうな内容について推測することが重要です。並べ替える部分の意味が推測できればよいので、会話の概要がわかれば大丈夫です。そのうえで「語句同士で組み合わせを作る」、「文法に則して組み合わせを作る」など、文法、語法の知識を用いてかたまりを作っていくと安定して得点できるでしょう。

## ● 大問4 長文総合

長文の内容は抽象的ですが設問は標準的な難易度でした。単語の意味を答える問題は、意味を知らなくても文脈から推測して正答できるようになっています。長文が自分の知っている単語だけで構成されることはほぼないため、単語の意味を推測する作業は長文読解において必須です。普段から知らない単語に出会ったときは、すぐに辞書で調べるのではなく文脈から推測する練習をしましょう。また、最後に内容一致文選択問題がありますが、本文を最後まで読んでから選択肢を読むと、その正誤を判断するためにもう一度本文を読み直すことになり非効率的です。選択肢と本文を並行して読み進めるようにしましょう。間違いの選択肢には必ず間違いの根拠があります。本文と照らし合わせて、どこが正しくてどこが間違っているのか、解答の根拠を持って設問に答えるようにしましょう。

## ● 大問5 長文総合

英文量が多いので、全体の内容把握に苦勞するかもしれません。普段から長めの文章を読む練習をし、分量に慣れておきましょう。また、本文と小問を同時並行で読み進めるようにしましょう。選択肢が日本語の小問もあり、その日本語が長文の内容把握の助けになります。本文中の単語に下線が引かれ、その単語と似た意味の単語を選択する問題が出題されました。このような形式の問題では難単語が扱われるため、知っている単語が問われる可能性は低いと割り切り、文脈から単語の意味を推測する練習をしましょう。下線部の内容把握に関する問題が中心でしたが、解答の根拠は下線部を含む段落に書かれていることが多いため、段落ごとに正確に読み取ることが大切です。

## ● 大問6 長文内の不要文選択

長文内の不要文選択問題では、段落の要旨を理解し関連性のない一文を見つけられるかどうかが鍵となります。内容が事実と異なるから不要であると判断できる場合もあれば、内容自体には誤りがなく前後の文脈に照らして判断しなければならない場合もあります。「本文の趣旨と関係のない一文がある」、「前後の文章と整合性のとれない一文がある」といった点を意識して取り組みましょう。